

(社)京都府情報産業協会
地域情報化委員会 各位

地域情報化委員長 古川峰生(文責)

第2回地域情報化委員会 議事録

開催日時 平成15年7月15日(火) 14時30分～18時前

開催場所 (社)京都府情報産業協会 事務所(京都コンピュータ学院駅前校1F)

出席者 (企業名順、敬称略) 会員は17名

安達(アステック)	中島(アド・プロヴィジョン)
木下(エクザム)	西尾(キャリアネットワーク京都)
山本(京信システムサービス)	駒井(京都電子計算)
藤原(けいしんシステムリサーチ)	小林(ケーケーシー情報システム)
宇多津(シゲル情報サービス)	桑原(システム創見)
直江(島津ビジネスシステムズ)	井上(スリーエース)
古川(総合システムサービス)	田口(総合システムサービス)
土井(日本コンピューターファシリティ)	馬場(バンテック)
藤関(ユニシス)	

・ 京都府商工部産業活力支援室

小林室長補佐 才寺主幹

・ 松下電器産業(株) : デモ及びDTV/PFの説明

奥野担当課長(電子自治体グループ) 松下課長代理(メディア連携チーム)

中山技師(行政基盤チーム)

報告及び議事

- 1) 第一回目以降の経緯説明: 活力支援室、松下電器産業(株)との連携した動きへの説明
- 2) 豊中市向けの実証実験(デジタルディバイドを配慮した市民サービス)のデモ及びデジタルテレビ/プラットホーム: DTV/PFのサービス実現形態の説明及び質疑
- 3) 通信放送融合化PJにどう関るかを議論

議事・報告内容

- 1) 第一回目以降の経緯説明: 活力支援室、松下電器産業(株)との連携した動きへの説明
 - ・ 15年度は、「京都デジタル疎水ネットワーク」を利用したソリューション検討でWGを立ち上げに向けて既に活動を開始している。
 - ・ 産業活力支援室の山下室長より地上波デジタル放送が本格化するとパソコン、携帯電話に匹敵する装置となる可能性がある。京都経済活性化の為に、通信放送融合化時代の到来を積極的に対応出来るように動いている。ソフトベンダーの社団法人として活動されている京情協もプロジェクトに協力されてはどうか。 6月16日
 - ・ 7月3日に地域情報化委員会の委員長、両副委員長と産業活力支援室、松下電器産業(株)とで会合を持ち、取り組みの概要及び2006年までの工程等をお聞きする。
 - ・ 15年度活動方針であるデジタル疎水ネットワークへの取り組みと同期するものであ

るとの判断で、第二回目の地域情報化委員会において委員の方々に説明する事に決める。デモをするほうがイメージ伝達し易いのアドバイスで松下電器産業(株)も協力していただく事となった。

2) 豊中市向けの実証実験(デジタルディバイドを配慮した市民サービス)のデモ及び:
D T V / P F のサービス実現形態の説明及び質疑

- ・デモ及び説明等での疑問点に関して多くの質問が出る。
- ・実証実験の実施が確定しているわけではないので即ビジネスとはならないが、各家庭でのテレビが新しいインフラとしての可能性認識を持つ事が出来た。

3) 通信放送融合化 P J にどう関るかを議論

- ・検討を進める上での意思確認及び適正な規模に関する議論となる。
- ・通信放送融合化 P J の可能性をもう少し検討したい会員(個別 W G には現時点では加入していないが)は参加要望を古川までメールを戴く事に決める。

以上